

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292400050		
法人名	株式会社グループホーム湯之崎		
事業所名	おばま温泉グループホーム湯之崎 (ユニットえびす)		
所在地	〒854-0514 雲仙市小浜町北本町字湯之崎905番地32		
自己評価作成日	平成24年11月10日	評価結果市町村受理日	平成25年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様の体調を把握し、病院受診やリハビリ等の通院には力を入れていると思う 病院受診・リハビリ等はスケジュールを組んで行っているが、ご本人様やご家族様からの希望があれば努力を行い、希望に副える様取り組んでいる ・入居者様の身体の状態は少しずつ変化しているが(事故や疾病などもあり)、身体に合わせた見守りを行っている 外出・日課等、入居者様が各々の生活の中で役割が持っていると感じる
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル7階		
訪問調査日	平成24年12月7日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>温泉街の中心部に位置しており、旅館を改築し開設したホームである。周辺住民及び旅館と近所づきあいを日常的に大切にし、餅つきや年越しイベントなど地域との関わりが深まっている。開設当初の理念の意義を職員はしっかりと理解し、その一部である「残存能力」をいかにできることを伸ばしていけるかを考え支援している。また、外部評価や運営推進会議での気づきを受け止め、サービス向上につなげている。事業所は医師や地域との連携を取りながら、家族によかったと言ってもらえるような看取りを目指している。管理者が職員の自主性に任せているため、職員の専門職としての意識が高まっている。食事はミキサー食にならないよう食事支援に関する利用者のアセスメントを改めて作成し、利用者一人一人のバックグラウンドを理解し、その人らしさを尊重し、支援に活かしている事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの基本理念がある 玄関等にそれが掲示されている	理念の意義を職員は十分理解している。玄関に掲示することで、常に職員が意識できるようにしている。理念の一部にある残存能力を職員の共通認識とし、利用者自身が決定したことを尊重し、今できることを重要視している。会議では個々の能力をいかに伸ばすか、検討し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの行事(餅つき大会等)への参加のお誘いをしたり、年間で季節を感じ取れるような地域の行事やお祭りにはできる限り出向いている	自治会に加入している。町の行事には利用者と共に参加したり、日々買い物時に利用者とは出かけ、挨拶を交わしている。ホーム行事に地域に参加を呼びかけ、子供達とも交流を取っている。地域住民より高齢者の介助で応援依頼があり、職員が対応している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に役立つ事がないか考えている 散歩や外出、地域の行事参加等で、職員・入居者様の普段と何ら変わらない生活や振る舞いを見て頂いている 又、近所にお住まいのご家族様に介護が必要な緊急時、職員に移乗介助の手伝いを頼まれお手伝いしたこともある		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の近況報告や外出・行事への参加等を報告している ミーティングや申し送りの中で会議での意見を聞き、現場へ活かす様努めている	規程メンバーで開催している。利用者の近況報告や意見交換、質問等議題となっている。会議では低所得者の入居相談や研修場所として事業所の利用依頼等があり、事業所の専門性を活かし対応している。今年は参加者の意見から会議日を偶数月の第3木曜と決め、4回開催している。	運営推進会議が、意見交換及びホームのサービス向上に有意義な会議となっており、今後も継続的に会議が行われ年6回の開催を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	雲仙市地域包括支援センターの職員の方の訪問があったり、協力を頂きながら連携を図っている	認定更新時等福祉課や利用者支援で必要な手続きがあれば各担当窓口へ相談をし、利用者が安心して暮らせるように協力関係を築いている。地域包括支援センター職員や福祉事業所職員と情報共有している。更に毎月の小浜ケア会議へ参加したり市の研修を受講している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様の状態により、日中や夜間にセンサーを使用させて頂いてはいるが、ご家族様にも説明を行ってご理解頂いている	島原半島3市グループホーム協議会主催の身体拘束に関する研修会に参加し、ミーティングで全職員に報告している。ミーティングで拘束の具体例をあげ、拘束のないケア実践を検討している。玄関は日中施錠なく見守り支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	受講可能な研修会には参加の機会を持つ様に行っている 言葉遣いなどは指導を行い注意を払った環境作りに取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在余り勉強する機会もなく、全員がその知識や理解は少ない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や改定がある際は文章にて説明させて頂き、問い合わせ等がある際は個別で説明を行うよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や面会・電話連絡の際に要望を伺ったり、入居者様との会話を積極的に行うよう努めている	管理者は家族訪問時や電話等で家族と対話する中で意向を聞いている。遠方や訪問回数の限られた家族とは、訪問日に必ず対話できるよう準備している。家族が意見を言いやすいような声かけを全職員ができるように努めており、「夕方以降の面会は可能なのか」という家族の質問には即対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の各ユニットの職員会議や毎日の申し送り意見交換等行うが、全職員が意見を出すというわけではなく、情報や理解にもムラがある	毎月のユニット会議に限らず随時職員が意見を言いやすい環境作りを行っている。管理者は男性職員、女性職員それぞれの特性を生かし、現場の気づきや情報を収集している。ホーム内備品や利用者の介助に関する物品は、職員の意見を多く取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や時間外手当などあり その他、年2回の賞与あり		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力・知識には差があり、学ぶ意欲を引き出す事が困難な状況である		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行事等を通して様子を知る事はあるが、余り交流する事は少ない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様の協力を頂きながら、不安や孤立感などを軽減できる様対策を検討し、要望を実現できるようにできる限りの努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に来られた時などご本人様の生活のご様子をお伝えし、ご家族様からの不安やご要望などはしっかりと申し送り、迅速な対策(不安の軽減)などの検討に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様のご要望はもちろんの事、情報の中や状態観察の中で必要なサービスの検討など、相談を行いつつ必要な支援の見極めに努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理の下拵えや洗濯物たたみ、お一人お一人の得意分野の作業など、日々の生活の中で役割を持たれており、進んで手伝って下さっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や病院受診の際や、ご本人様の不安時など、状態の報告や相談のご連絡させて頂くと、対応・ご協力下さっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人などの面会もあり、近隣への買い物や催し物への外出で知人の方と会い、お話をされたり、馴染みの店への外出の機会を設けている	家族や近所の知人などがホームを訪問している。また利用者は近所への買い物や馴染みの美容室、碁を打ちに出かけている。日常会話から気持ちを汲み上げ、職員が墓参りに付き添うこともある。家族との関係修復や外出など働きかけを行い関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	作業を一緒にしたり、レクリエーションなどで自然に会話ができる機会作りを設けている 又、不安定時は職員が間に入り孤立やトラブルの防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為退去となられた場合はホームで協力できる事などの相談を行う		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴や外出時など1対1で話をできる時や、日頃の様子から希望や意思を伺う様になっている	利用開始時に利用者の生活歴を聞き取り、その後担当職員が日常会話の中から意向を把握している。以前の職業から検討したり、元同僚から話を聞くこともある。情報を得にくい場合は家族の協力も得ている。介助拒否や発語困難な場合は原因を検討し、様々は方法で利用者に関わり、思いを表せるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、生活歴を尋ねたり、日々の会話から以前の生活や生き方などを聞き、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックの実施、入浴時の身体の観察、食事・排泄の状態など、職員間で情報交換し、把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人別に担当者を決め、細やかな理解ができる様努めている 又、情報交換を行える様に月1回の会議や日々の申し送りを行っている	短期長期の介護目標を作成している。3ヶ月毎に見直しを行っており、更新前に家族の思いを尋ね、介護計画を作成し同意をもらっている。但し、支援目標が介護者中心の部分が見受けられる。また支援内容の経過と日々の記録が連動していない。	介護計画は利用者がよりよく暮らすための支援内容であり、利用者主体の支援内容が望ましい。また介護計画のモニタリング・評価に至る支援経過内容がわかるような個人記録の方法を検討することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌・ホーム日誌へ生活状況など記入し、比較・対応などを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や外泊の希望に応じ対応している		

おばま温泉グループホーム湯之崎(ユニットえびす)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人福祉センターでの基会や食材の買出し等と一緒に外出して頂いたり、地域の祭などは可能な限り参加して社会との交流を図って頂いている 又、ご希望に応じ美容院やショッピングセンターへの外出を職員やご家族様と一緒にに行かれています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医と入居後のご希望をご本人様・ご家族様と相談し、希望通りに対応している 新たな疾患が出られた場合もご本人様・ご家族様へ相談し、専門的な医療が受けられる様職員にて支援している	かかりつけ医受診は職員が支援している。主治医が協力医の場合は往診があり、訪問看護も受けている。他専門医は利用者や家族の意向に沿うように受診支援しており、受診記録や薬の説明書を用い家族に報告を行っている。緊急時、夜間時も協力医との連携体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お一人お一人の体調の変化や情報を職員間で共有し、その後訪問看護師やかかりつけ医へ確実に伝えていくよう努めている しかし、報告は緊急時以外受診時・訪問時となる為職員間の連携をきちんと行い、迅速な報告ができる様努めていく		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期受診はもちろんであるが、異変がある場合は早急に医療機関に相談をし、常に事前の対応を心がけている 入院の際も頻回に訪問し、早期退院できる様医療機関との連携を図っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人様・ご家族様と共に話し合い、同意は得られている 現時点で重度化や終末期といった対象者はいないが、入居者様の年齢等考慮し、全職員が個々の入居者様に合った対応ができる様体制を整えておく必要がある	重度化・看取りに関する指針は、利用開始時に利用者と家族に説明を行い、同意を得ている。昨年末に看取りの事例があり、職員は主治医、家族と協力し合い介護を行った。この事例での反省すべき点、足りなかった点を今後を活かし、看取りへの支援に取り組んでいく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルはあるが、新しい職員も増え、全職員が熟知できていない 急変時の対応も同様である 全職員が熟知できるまで避難訓練や緊急時の対応等を定期的に行い的確な対応ができる様にしていける必要がある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度、消防署様協力の下、避難訓練を行っている しかし、新たな職員が増え、全職員が把握できてはいない 特に夜間、入居者様が安全に避難できる様に体制を整えていく努力をする	年2回消防署立会いの避難訓練を行っている。自治会長の協力で地域住民の参加を募った。消火訓練や座位型担架で避難誘導を行っており、災害時に備え、食料や簡易トイレ等の備蓄品も整えている。職員は訓練毎に防災に対する意識が高まり、安全に避難できるような体制作りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他の入居者様に聞かれたくない話は、居室にて会話を行い、個人日誌の記入時など、席を立つ時は裏返しにする等見えない様になっている	職員は利用者と視線を合わせ会話をし、声の大きさやトーンなど利用者への接し方に注意を払っている。個人情報事務所で保管し、個人ファイル等をイニシャルで記載している。職員の守秘義務を徹底しており、誓約書を取っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様からお風呂の希望があれば、一緒にタオルや服選びを行い入浴できる様に取り組んでいる 又、トイレの希望がある場合、その事を言えなくてソワソワされる方には職員から声かけを行い誘導している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リハビリや受診などスケジュールを合わせてお連れしている その方が行きたい場所の希望・入浴の希望があればできるだけ副える様準備整えたり対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や好みの色などに合わせて着用して頂いている 買い物や受診の外出前にはご本人様と相談し、身だしなみの支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人お一人の状態(食欲や体重等)に合わせて、普通盛り/小盛にして配膳している 箸の使用が困難な方はフォークやスプーンも併せて準備し、食事の盛り付けや下膳などは出来る範囲でして頂いている	ホームプチ菜園や旬の食材を取り入れた献立は利用者の嗜好をふまえて職員が作成している。調理の下準備や配膳など参加してもらっている。行事に合わせた献立や外食、出前を頼むなど食事をするに変化をつけている。また、職員と一緒におやつ作りや食事を取るなど作る行程を共に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の指示により5回に分けての分食にしたり、一日を通じての量を考えておやつを調節したりしている 食事時の水分量が進まない方や入浴後などは他の飲み物で対応したりもしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後・就寝前には声かけを行い、お一人お一人の段階に応じた義歯・口腔内の洗浄などをして頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・お一人お一人の時間やタイミングを計りながら声かけを行っている ・パッドの装着がうまく出来ない方の介助を行っている 	職員はトイレでの座位排泄支援の意義を理解し支援している。体調に応じてポータブルトイレを使用している。退院後のオムツ使用を停止し、パッドの種類や布パンツの使用を検討している。排泄チェック表からパターンを把握し、声かけや仕草を見守りながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・水分の摂取量が少ない方には、十分量の水分を摂取して頂く様に声かけを行っている ・入居者が散歩や適度な運動をして下さる様に働きかけている 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	皮膚疾患のある方もあり、温泉と水道水の二種類のお湯を使い分けている 入居者のタイミングの希望には副えない場合もある	週2、3回を目安に入浴介助を行っており、足浴を取り入れている。利用者の皮膚の具合に合わせて、温泉か水道の使い分けをしている。拒否時は強制せず、声かけや時間をあけるなど対応を工夫し、拒否が無くなった事例もある。希望で同性介助も対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠に影響しない程度に、午睡の声かけを行っている 夜間不眠の方がおられ、その原因を究明する為に、夜勤者に様々な対応を試みってもらう等の支援を行い、最終的には医療やご家族様の協力を頂きながら解決できた		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診に行った際は、同行した職員にて受診録へ記録し、薬の説明書と共に、他の職員が確認する様にしている 受診内容については全員に申し送り行う		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様お一人お一人の得意な事や興味のある事を見出し、毎日楽しく出来る役割や活動を引き出す事を心がけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・移動手段や人員の不足等により、外出の機会が少ないが、その日の体調や天候・気温を考え、入居者様の希望をお聞きしながら外出の支援に努めている ・希望があればご家族様に協力頂き、帰宅の支援を行っている 	天候や体調に応じて利用者は買い物やホーム周辺の散歩を行っている。回覧板を渡しに出かけたり、投票に行くなど個々の希望に応じている。花見や祭、町のイベント等、季節毎に遠出を企画し、全員バスに乗って外出を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人お一人のご希望に副う努力をしている。ご自分で持ちたい方にはある程度こちらで把握した上で、引き出しや買い物などもご希望に応じて同行や代行を行っている 又、管理が困難な方は預かりを了解頂き、出入の都度出納帳にて管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状などはがき作成の支援にてご家族様や身近な方との交流ができる様に図っている 電話の希望がある場合も職員が間に入り支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の居室は、ご家族様にご協力頂き、居心地の良い空間になる様努めている トイレも毎日清潔にする様心がけている	ホーム内の採光や生活音量は穏やかで、朝掃除の換気で室内の空気もさわやかである。季節感を出した飾りは利用者が手伝ったり、利用者の作品を掲示し心地よく過ごす空間作りをしている。掃除は毎朝職員が行い、健康管理に気がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	作業やTV、音楽鑑賞など、共通の話題作りに努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけご自宅に近い環境になる様に、ご家族様に依頼して写真や趣味の物を飾ったりしている。又、皮膚疾患にて掻痒感を左右する方の居室には温湿度計を設置し、加湿/除湿の対応を行ったり、裁縫が得意な方の居室には裁縫道具等を持ち込まれたり、個人に合わせた環境を作る努力をしている	利用者は馴染みの荷物を自由に持ち込むことができ、ベッドの位置や調度類は本人が混乱しないように配置している。職員が室温管理と清掃を行い、居室でくつろげる空間作りを行っている。但し、日中未使用のポータブルトイレの配置やパッド類のネームの入った段ボールなどの整理整頓に課題が残る。	居心地良い居室への配慮として、日中未使用のポータブルトイレの保管には工夫が必要と思われる。またパッドの箱をそのまま収納箱としているのは羞恥心への配慮が欠けていると思われ、対応が必要である。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所の表示はあるものの、認識できない方にはその都度説明したり、ご自身の居室がわからない方にも表札を確認して頂いたりしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292400050		
法人名	株式会社グループホーム湯之崎		
事業所名	おばま温泉グループホーム湯之崎 (ユニットほてい)		
所在地	〒854-0514 雲仙市小浜町北本町字湯之崎905番地32		
自己評価作成日	平成24年11月10日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様お一人お一人に合わせた歩行の介助、食事の介助等を行い、入居者様方への介護を一樣にしない様になっている ・入居者様のお話にはよく傾聴する様心がけている
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル7階		
訪問調査日			

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は玄関や事務所に掲示してありいつでも確認することができる 常に意識はできていないが、残存機能を使って頂くことに関しては実践されている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・近所への買い物時は入居者様もお誘いし、できるだけ外部の方との交流を持って頂く様努めている ・定期的な行事の際は子ども会や近隣の方々もお誘いし、参加して頂いている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・特別な活動無し ・外出時等に入居者様のご様子を周りの方々に見て頂いている ・運営推進会議にて参加者の方には情報交換を通じて発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ミーティング時に会議の時に上がった意見等の伝達やそれに対しての指導がある		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居後も地域包括支援センター職員の方や生活保護の入居者様には担当の福祉事務所職員の方の訪問等があり、困った時やお尋ね事がある場合はすぐに相談にのって下さる		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・居室入り口の施錠は行わない ・入居者様の身体面での安全を考慮しながら最善の対応に努めている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・身体拘束についての研修に参加、その後、全職員にて情報の共有を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在成年後見制度を利用されている入居者様がおられず、又これに対する研修の参加も少ない為、この制度について理解しているとはいえない 入居されたばかりの方で権利擁護の必要な方がある為、その方を通じて今後は身近なものとして全職員の理解を深めていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族様に直接ご理解・ご納得頂ける様にしている 又、いつでも疑問点について聞いて頂ける雰囲気を作る努力をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や面会・電話連絡の際に要望を伺ったりしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の各ユニットの職員会議や毎日の申し送りで意見交換等行うが、全職員が意見を出すというわけではなく、情報や理解にもムラがある		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員不足が習慣化している中、一日も早く充足できる様に面談会やマッチングイベントなどに出向き、職員一人ひとりの時間外労働を減らしたり、日々の業務の軽減に向けて努力している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力・知識には差があり、学ぶ意欲を引き出す事が困難な状況である		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・島原半島グループホーム連絡協議会の行事に参加し、他施設との交流を図っている ・近隣グループホームの行事等に入居者様と共に参加させて頂いたり、当ホームの行事に招いたりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後、ご本人様の話に対し傾聴に努めている 傾聴時にご本人様の心境の変化、不安等を見逃さない努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後ご家族様の面会時にはなるべく職員より困った事、要望などをお聞きし、職員間での話し合いを行いながら、信頼して頂ける様に努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入にあたり、不安を抱えておられるご家族様の不安を取り除く材料を探す事から始めている 生活保護等申請の手続きや入居にあたり必要な書類等の説明など、相談があれば対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る範囲で積極的にサポートできる様日々努めてはいるが、まだまだ職員の努力が必要である		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一年の様々なイベントや入居者様の誕生日、父の日母の日・敬老会などご家族様の参加や面会の呼びかけを行いながら、又、会話の中にご家族様の名前を出す様にし、記憶からご家族様が薄れていく事のない様に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご夫婦で入居されていたが、ご主人の急逝により一気に不安を募らせた奥様に、これまで以上の精神的なフォローを行い、今後は遠慮されていたご自身の息子様(逝去されたご主人とは再婚)との関係回復を支援させて頂きたい		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が一緒に作業などにお誘いして下さり和を作って下さっているが、職員は出来る方にか頼んでいない者もいる 特に新しい方が入居された時などは、古くからおられる入居者様が職員に代わりサポートして下さっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了前後に入院された方には入院後も洗濯物引取り等の支援を行い、又ホームや入院先で亡くなられた方の通夜・葬儀には職員一同参列し、退去後も困られる事があれば相談して頂く様に声かけを行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の話を傾聴しながら、信頼関係を築ける様に努力している 又、意思疎通の困難な方でも、ご本人様へお尋ねし、なるべくご本人様本位に近づける努力をしているが、十分とはいえない		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会に来られたご家族様に尋ねたり、馴染みの物を持参頂くなど、なるべくその方のご自宅での生活に近づけられる様に努力している 又、ご本人様へ若い頃の話や子育て中の会話を聞きだすなど、お一人お一人に合った会話をする様に心がけている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事・出来ない事を見極めて出来る事はなるべく続けて頂く様に努力している 又、バイタルチェック・入浴時に一日の体調管理を行う様に心がけ、特変がある時には申し送り等にて報告できる様にしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回のミーティングにて、入居者様についての意見交換・情報交換を行っている 職員は個々の入居者様の理解に努め、ご家族様へ相談も行っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人日誌・ホーム日誌へ特変や入居者様の一日の出来事などを記入し、申し送りなどで報告を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の気分転換の為ドライブや衣類購入に出かける支援をし、地域との交流等もやっている 又、ご家族様の困っている事をお聞きしたり介護認定の更新などの相談を受けたり代理申請を行ったり、その時々合った支援を心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	心がけてはいるが、出来ていない部分も多々ある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	不信感のある医療機関もあり、全ての入居者様が適切に医療を受けられているとは思わない		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師は週に一度の訪問時に相談を受けては下さるが、かかりつけの医師は入れ替わりがあり十分協働できているとはいえない		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣の病院への入院時はほぼ毎日お見舞いに行き病状をお聞きしている 遠方の病院への入院時は、出来る限りお見舞いに行き主治医若しくは担当看護師より病状を聞く様にしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	少ないながらも終末期の方の対応を経験した職員もあり、経験者を中心にチームで支援できる様に努力している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが、事故発生時に適切に対応できるか、不安はある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は避難訓練実施しているが、十分とはいえない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話しかける際は視線を同じ高さにし、敬語を用いて話しかける様にしている 又、入居者の方々の希望を極力聞き遂げることができる様話を傾聴している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方々の希望にできるだけ副える様に話を傾聴している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間をずらしたり、居室での午睡・リビングで休まれるなど、お一人お一人に応じた対応をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	通院や外出の際は入居者様の希望を聞き、更衣して頂くなどしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員により1週間毎に交代でメニューを考案し、変化を持たせ食べ易く消化に良いものを提供する様にしている 又、調理の際は野菜の皮むきなど積極的に参加して頂いている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様お一人お一人が完食できる様に配膳する量を調整している 又、十分な水分量が確保できるようにその方の望まれる飲み物を提供したり、声かけ・一部介助を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、出来るだけご自分でケアして頂いている ご自分でのケアが不可能な方については、職員による介助を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・時間やタイミングをみてトイレ声かけを行っている ・排泄に関してご自分で出来る事はご自身でして頂き、出来ない事を職員により介助を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便がない場合、施設長を含めた職員間で相談の上、水分を多めに摂って頂くなどの対応を行い、又便秘の場合は薬にて対応したり病院受診を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・なるべく日数が開かない様に入浴者チェック表にて確認し、入浴の声かけを行っている ・職員の人数不足等の都合で入浴者数が限られてしまう事もある		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人のタイミングや希望がある時などは午睡やくつろげる空間での休息をして頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・受診後は同行者が受診録を記入し、薬の説明や医師の指示を全職員へ伝え、その後の対応・支援を行っている ・薬の変更がある場合特に気をつけ、副作用が強い場合は医師へ指示を乞うなどしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・作業や家事を手伝って頂いた際は感謝の言葉を伝えたと笑顔になって下さる ・作業ができない方には職員との会話の中で楽しんで頂ける様にしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・外出の声かけに応じて頂ける様な声かけが出来ていないが、実際、職員の人数不足により残り外出は行えていない ・地域の祭やイベントなどには喜んで外出される方がおり、他入居者様もお誘いして一緒に外出できる時がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で金銭管理をされている方もおられ、使い過ぎなどに注意しながら金銭管理を支援し、ご家族様よりお預かりしたお金は金庫保管し出納帳記入にて明確にしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	心配事がない様に、入居者様からご家族様へも、ご家族様から入居者様へも、いつでも電話で話ができる様に支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除をきちんと行い、居心地よく過ごして頂ける様、入居者様のお力も借りながら花や飾り物などで工夫をしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにてソファや椅子に自由に座られ、誰とでも自由に会話ができ、安心される様にしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から持って来られた持ち物など、お一人お一人ご自分がお好きな様にして頂き、居心地良い様にお手伝いしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事はして頂き、見守り・声かけ行い、自宅ではない為に混乱や失敗などされない様に工夫している		